

令和4年度 事業報告 (案)

資料2

全国科学博物館協議会

1 管理運営

| 事項 | 内容 |
|---------|--|
| 第1回 理事会 | <p>期 日 令和4年7月7日(木)</p> <p>会 場 国立科学博物館 大会議室及びオンライン</p> <p>出 席 館 出席:20館(監事館を含む) 現地:14館 オンライン:6館</p> <p>議 事 次の議事について審議し、承認された。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和3年度事業報告(案)について 2) 令和3年度収支決算(案)について 3) 令和4年度事業予定(案)について 4) その他 |
| 第1回 総会 | <p>期 日 令和4年7月7日(木)</p> <p>会 場 国立科学博物館 講堂及びオンライン</p> <p>出 席 館 出席者:134名うち現地62名(正会員89館園及び維持会員9団体、購読会員2団体) 委任状提出:86館園・団体(正会員82館園及び維持会員4団体)</p> <p>議 事 次の議事について審議し、承認された。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和3年度事業報告(案)について 2) 令和3年度収支決算(案)について 3) 令和4年度事業予定(案)について 4) その他 <p>行政説明 「改正博物館法の内容とそのねらい」 文化庁 文化戦略官 井上 卓己</p> <p>記念講演 「新型コロナウイルス感染症の流行に対する博物館の取組 ―国立科学博物館の事例を踏まえて―」 国立科学博物館 館長 篠田 謙一</p> <p>施設見学 令和4年7月8日(金) 見学先:港区立みなと科学館及び気象科学館</p> |
| 第2回 理事会 | <p>期 日 令和5年2月15日(水)</p> <p>会 場 浜松科学館及びオンライン</p> <p>出 席 館 出席:19館(監事館を含む) 現地:10館 オンライン:9館 委任状提出:1館</p> <p>議 事 次の議事について審議し、承認された。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和5年度事業計画及び収支予算(案)について 2) その他 <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 全科協総会等における託児サービスの導入 2) 令和5年度の役員館園について |
| 第2回 総会 | <p>期 日 令和5年2月15日(水)</p> <p>会 場 浜松科学館及びオンライン</p> <p>出 席 館 出席者:162名うち現地76名(正会員89館及び維持会員8団体、購読会員1団体/会員外参加者2名) 委任状提出:71館・団体(正会員65館及び維持会員6団体)</p> <p>議 事 次の議事について審議し、承認された。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和5年度事業計画及び収支予算(案)について 2) その他 <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 世界自動車博物館会議日本大会に向けた状況報告 2) 全科協総会等における託児サービスの導入 3) 令和5年度の役員館園について <p>行政説明 博物館振興施策等概要説明 文化庁 文化戦略官/博物館振興室長 井上 卓己</p> <p>話題提供 「ICOMプラハ大会報告」 ICOM日本委員会事務局長 半田 昌之</p> <p>講 演 「科学館における教育普及とエンターテインメントの両立～サイエンスショーの実践から～」 浜松科学館 チーフエドゥケーター 上野 元嗣</p> |

2 事業
(1) 研修事業

| 事項 | 内容 |
|------------------------|--|
| 学芸員専門研修 (アドバンス・コース) | 博物館の現状を幅広い観点から理解するとともに、資料の収集・保管、調査研究、展示、学習支援活動等について専門的、実践的な研修を実施した。 期 間 令和4年11月7日(月)～9日(水) (3日間) 共 催 者 国立科学博物館 内 容 岩石・鉱物標本収蔵法及び子どもを対象とした体験実習等 参 加 者 10名 |
| オンライン学芸員 専門研修 | 主に自然科学系博物館等に勤務する学芸員等を対象に、資質の向上を目的として研修を開催し、オンライン(Zoom)のライブ形式にて講義を行った。 期 間 令和5年1月16日(月)、23日(月)、30日(月) (3日間) 共 催 者 国立科学博物館 内 容 国立科学博物館理工学研究部の研究活動やオンラインを含む学習支援活動等 参 加 者 29名 |
| オンライン説明会 | 10月から図書館及び関連組織のための国際標準識別子 (ISIL) 付与範囲を博物館、公文書館に拡大することとなったため、ISILの概要等について説明会を実施した。 期 間 令和4年6月15日(水) 講 師 国立国会図書館関西館図書館協力課 平澤大輔 内 容 ISILの概要、図書館での活用例、付与の流れについての説明及び質疑応答 参 加 者 33名 |
| 海外科学系博物館 視察研修 | 新型コロナ禍の現状に鑑み、令和4年度は実施を中止した。 |
| 海外先進施設調査 | これからの博物館事業を支えていく若手職員に、海外の先進博物館を調査・研究する機会を提供すること等を目的として、(公財)カメイ社会教育振興財団の助成を受けて実施した。 内 容 1名の調査者が、各自でテーマを設定し、令和5年10月から11月の間で、米国の博物館、研究施設等を訪問し調査した。派遣者とテーマ、調査先は以下のとおり。 ・ 南阿蘇ルナ天文台 高野敦史 「米国の天文台施設におけるオンラインサービスの取り組みの現状とこれからの展開に関する現地調査」 ウィルソン山天文台 シャポー宇宙科学センター リック天文台 グリフィス天文台 等 |

(2) 連携促進事業

| 事項 | 内容 |
|--------|---|
| 研究発表大会 | 科学系博物館に共通する課題や各館の活動成果について発表及び協議し、学芸員等博物館専門職員の活動の一層の充実に資することを目的とし、第30回研究発表大会を開催した。 期 日 令和5年2月16日(木) 会 場 浜松科学館及びオンライン 司会進行 福岡市科学館 高安 礼士、国立科学博物館 小川 義和 参 加 者 176名うち現地83名(会員外参加者4名) テ ー マ 誰もが利用できる包摂的な科学博物館～人々のニーズや社会の要請に応える ○口頭研究発表 14件 ① 特別な支援が必要な子どもたちを対象とした教育普及活動 静岡科学館る・く・る 藪崎清香・加藤友梨香 ② “誰一人取り残さない” Museumの包摂的プログラムの実践とその検証 ～千葉市科学館の事業を中心に考察し提言する～ 千葉市科学館 新 和宏 |

| | |
|-------------------------------|--|
| | <p>③ 科学館が「やさしい日本語」を導入するというこゝ多摩六都科学館の多文化共生の実践から～ 多摩六都科学館 高尾 戸美</p> <p>④ 誰を包摂するのか～博物館が想定する未利用者・非利用者と活動戦略～ 大阪市立自然史博物館 佐久間大輔・石井陽子</p> <p>⑤ 科学館ボランティアによるオンライン科学工作教室の継続的な実践 大阪市立科学館 上羽 貴大</p> <p>⑥ 誰でも利用できる「自然教育の場」をめざして ～学習サイト「自然教育園で学ぶ自然のメカニズム」の開発と活用～ 国立科学博物館 下田彰子・遠藤拓洋・小川義和 筑波大学 山田博之、東京農工大学 齊藤有里加 NPO法人地域自然情報ネットワーク 梶並純一郎</p> <p>⑦ 触って知る「タッチカービング教室」の実施 港区立みなと科学館 河野 由佳</p> <p>⑧ 日本科学未来館におけるアクセシビリティ向上の取り組みについて 日本科学未来館 永田 順子</p> <p>⑨ 宇宙をさわる特別展と手話付きオンライン事業 明石市立天文科学館 鈴木 康史</p> <p>⑩ コミュニティや個に応じた学習展開を探る：インクルーシブなアウトリーチプログラムの実践 神奈川県立生命の星・地球博物館 田口公則・佐藤武宏</p> <p>⑪ 12年前の東日本大震災を全国の人に伝える 磐梯山噴火記念館 佐藤 公、福島県立博物館 筑波 匡介 福島大学 瀬戸 真之</p> <p>⑫ コロナ禍から開催した閉館後イベント等について 新江ノ島水族館 崎山直夫・岩崎菜奈・野上まみ・山崎祐一郎</p> <p>⑬ アートで伝える国連海洋科学の10年 糸魚川フォッサマグナミュージアム 香取 拓馬</p> <p>⑭ 「包摂的で持続的な社会を考える」学習に向けた教職員対象セミナーの実施 「SDGsを使って子どもたちと社会を見つめる－身近な公園に出かけよう－」 兵庫県立人と自然の博物館 安田英生・福本優 橋本佳延・高田知紀</p> <p>○ポスター発表 6件</p> |
| <p>巡回展の実施協力</p> | <p>国立科学博物館製作による巡回展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」、「ダーウィンを驚かせた鳥たち」及び「琉球の植物」、産業技術総合研究所地質標本館製作のパネル展「祝チバニアン誕生！拡大版－もっと知りたい千葉時代－」、「深海の新しい資源にせまる－SIP プロジェクトによる革新的な地質調査－」、「日本初！日本列島大分析 元素で見る『地球化学図』」、「地球の時間、ヒトの時間－アト秒から 46 億年まで 35 桁の物語－」、「美しい砂の世界－日本の砂、世界の砂、地層の砂－」、「日本列島ストレスマップ－地震観測とAIで読み解く全国の地殻応力場－」、「時」展覧会2020実行委員会製作のパネル展「時の記念日100周年『時』展覧会2020」、日本科学技術振興財団の巡回展示「ラ・ビレット展」、「マグネット展」、「スポーツを科学する」、「感覚・体感フィールド」、「科学捜査展」、「究める！マグネット展」、「科学捜査展 #SEASON2」、「マスレチック・ランド」、「光の世界」、「自然現象のメカニズム展」の案内周知を行うなどその開催実施に協力した。</p> |
| <p>科学系博物館ネットワークシステム事業への協力</p> | <p>国立科学博物館が行っている科学系博物館情報ネットワークシステム事業（S-net）について、事業推進に協力した。</p> |
| <p>事業に対する後援</p> | <p>加盟館園や関係機関等が実施する事業で、全科協の設置目的に適合し、適当と認められた事業に対し後援を行った。 12件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「博物館の達人」認定（独立行政法人国立科学博物館、一般財団法人全国科学博物館振興財団） 2) 「青少年のための科学の祭典 2022」各大会 （「青少年のための科学の祭典」各大会実行委員会、公益財団法人日本科学技術振興財団） 3) 夏休みあいちサイエンスフェスティバル2022（国立大学法人名古屋大学） |

| | |
|--|---|
| | <p>4) あいちサイエンスフェスティバル2022 (国立大学法人名古屋大学)</p> <p>5) 令和4年度展示論講座 (日本展示学会)</p> <p>6) 千葉県科学フェスタ2022 (千葉市、千葉市教育委員会、千葉市科学館)</p> <p>7) 第39回植物画コンクール (独立行政法人国立科学博物館)</p> <p>8) 令和4年度科博オンライン・セミナー～サイエンスコミュニケーション初級編～ (独立行政法人国立科学博物館)</p> <p>9) ミュージアムにとってのジャパンサーチ (国立国会図書館)</p> <p>10) 静岡科学館 企画展「大きくしてみた！～大きくすると見えてくる～」 (静岡科学館)</p> <p>11) デジタルアーカイブフェス2022ージャパンサーチ・デイ (国立国会図書館 (電子情報部電子情報企画課)、内閣府 (知的財産戦略推進事務局))</p> <p>12) 「米国天文台アウトリーチ調査」オンライン報告会 (日本公開天文台協会)</p> |
|--|---|

(3) 広報普及事業

| 事 項 | 内 容 |
|------------|--|
| 機関誌の発行 | <p>全科協ニュース編集委員会を開催し、特集テーマ等加盟館園にとって有益な情報を掲載するよう内容の充実を図った。</p> <p>「全科協ニュース」を年6回編集発行した (A4判16頁内カラー4頁、2022年まで900部、2023年より850部)</p> <p>第52巻第3号 (R4年 5月) 特集：災害に「備える」</p> <p>第52巻第4号 (R4年 7月) 特集：第29回研究発表大会より博物館の社会的役割を考える ～変動する社会における博物館の運営と活動～</p> <p>第52巻第5号 (R4年 9月) 特集：博物館における自然科学と異分野の融合</p> <p>第52巻第6号 (R4年11月) 特集：コロナに関するサイエンスコミュニケーション</p> <p>第53巻第1号 (R5年 1月) 特集：博学連携の取り組み</p> <p>第53巻第2号 (R5年 3月) 特集：デジタルアーカイブ</p> |
| 入会案内及び広報活動 | <p>全科協ホームページのリニューアルを行った。</p> <p>全科協ホームページの運営方法と内容を随時見直し、facebookを活用するなどして情報及び内容のさらなる充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全科協ニュース全号の掲載 理事会・総会の開催通知や各事業の募集案内の掲載 研究発表大会口頭発表要旨の掲載 <p>他の博物館等協議会や関連企業等と情報交換し、リーフレットを配布するなど全科協への加盟の広報に努めた。</p> |